

事例7 娘の異質さを受け入れにくい母親をもつG子(中学3年生)

欠席等の様子

小学校 風邪等で欠席する以外、目立った欠席はなかった。

中学校 入学後5月頃から、身体症状を訴えて遅刻する日が多くなる。
1年5月から2年1学期末まで保健室に登校した。

学習の様子

[図形・数]

立体の見取り図や展開図の作図が難しい。

空間概念の理解が難しい。

多操作計算問題に誤答が多い。

表やグラフ作成が苦手である。

文章題の立式に手間取る。

[言語]

ニュアンスを受け止めたり、話し合いについていけないことがある。

表現力も乏しい。

性格や行動の様子・エピソードなど

(乳幼児期)兄や姉に比べて、周囲にかかわりを求めることが少なく、親にとっては「手のかからない子」であった。

(小学校)言葉が不明瞭で動作が遅いために、仲間はずれやいじめにあう場面が見られた。

中学入学後も大きな体と緩慢な動作はよく目立ち、他の小学校から入学してきた生徒からからかわれることもあった。

自分の思いを言葉で表せなかったり、強い口調で迫られると返事に詰まってしまって泣き出すことが多い。

リラックスできる対人関係であれば、調子よく一方的に話す場面もあるが、同級生の会話の中に加わることができない。

生徒の理解

聴覚記憶の弱さ、図形記憶、言語での表現力の弱さなど、中枢神経系の機能障害が推測される。このことがG子の認知や行動に特異性をもたらし、それは兄や姉に比べて母親にとって受け入れにくいものであったとも考えられる。これらを背景とする幼児期からの希薄な母子関係が、思春期を迎えた中学校での新たな人間関係や学習場面での不適応につながっていると推測される。

援助・指導の方針

- 1 養護教諭との信頼関係をもとに保健室登校から始めて、徐々に人間関係の拡大を図る。
(G子を理解し励ましてくれる仲間作りと、安心してコミュニケーションがとれる学校生活や学習環境の設定を図る。)
- 2 学習の遅れの改善に向けた個別指導を行う。(具体的な課題に根気よく取り組めるように援助する。)
- 3 障害児学級(以下障級)で国語と数学の基礎的な学習を行い、コミュニケーション能力を育成する。
- 4 家庭と連携し、保護者のG子理解を深め、母子関係を築き直せるよう援助する。。

保健室登校

中1 5月

・微熱・腹痛等の身体症状の訴えや遅刻が増加した。自分の思いを話せず泣き出すため、養護教諭と交換日記を始めた。(卒業まで15冊。登校したくない気持ち、母親との触れあいが少なく寂しい家庭環境等が記述される。)

障級の活用

中2

・母子関係の不足を補うような退行(養護教諭にべったり甘える等)が現れるが、甘え、依存できる人間関係を経験させ、「学校には自分を待っている人がいる」という安心感をもたせた。

・障級での国語と数学の学習について、母親と面談を行う。

・G子も教室以外の場での学習に意欲を示す。母親も了解し、障級での国語と数学の指導を開始した。

・障級では、聴覚認知と記憶力を高めるため、漢字書取り、単語暗記や基礎的な計算等を中心に継続的に援助する。

・清掃、学級活動、行事等は、自学級の女子生徒に迎えに来てもらって参加した。

・「母親が依然として自分に関心を寄せてくれない」と感じ、自分の思いが解ってもらえないときには、母親へ物を投げつけたり叩いたりする。その気持ちを受けとめながら、母親への暴力をはたらかないことを約束させる。

・人間関係を広げるため、学年や教科の教師からも声をかけることを依頼し、コミュニケーションをとる力と心の安定を図る。

個別指導をしながら教室登校へ

中3

・保健室に来室する同級生の女子生徒達との交流を図る。

・学級での授業を受けるようになるが、放課後を利用した個別指導は継続した。

変化と課題

1 変化

対人関係 人の優しさや思いやりを受けとめられるようになった。また、べったり甘えていた養護教諭との距離がとれるようになり、対人関係が他の教師へも拡大された。

学習面 達成感や周囲の大人に認めてもらえる喜びを知るようになるとともに、他の教師からの励ましや援助を受けて学習意欲の向上が見られた。

2 課題 母親との心の交流が少ない家庭状況は、大きくは変化していない。

考察

養護教諭に受け入れられた体験が、彼女のその後の人間関係の広がり大きく寄与したと考えられる。学校において、母親との依存関係の体験を補うことは困難なことであるが、G子の強い依存を、養護教諭がしっかりとかつ適切に受けとめたことで、彼女が自ら距離を測って対人関係がもてるようになった事例である。

また、学習面でのつまずきを個別指導で援助したことにより、自己有能感を高めることもでき、意欲の向上につながった。

G子は今

高等学校卒業後、専門学校に入学。未だ母親に言えないことが多く、病院(内科)に通院し、話を聞いてもらっている。